



## 年間第 5 主日 (マタイ 5:13-16)

わたしたちは今もともし火であるべき

「山の上にある町は、隠れることができない。」(5・14) 年間第 5 主日でイエスが思い描いたのはエルサレムの町かもしれません。エルサレムは標高 800m の小高い丘の上にあるので、イエスの考えていた町にうまく合致します。このエルサレムの町に、イエスは何を重ねて考えたのでしょうか。

掲示してある写真は「山の上にある町」として紹介されたエルサレムを訪ねた時のものです。オリーブの茂るゲッセマネの園がわから見た景色、エルサレム旧市街を囲む城壁、聖墳墓教会、かつてあったエルサレム神殿の模型などを並べてみました。あらためて、今回巡礼したイスラエルの訪問地の中で、ひととき印象に残る場所でした。

ところで皆さんは田平教会を海の上から眺めたことがあるでしょうか。わたしは漁船で海に出て三度目に、ようやく海の上から田平教会を眺めることができました。それまでは釣りをすることで精いっぱいだったのですが、周りを見回しながら船を出した三度目の出航で、初めて海の上から田平教会の塔が丘の上に見えたのです。それはまさに「山の上にある教会」でした。

「あー、これだ」と思いました。「あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」(5・14-16)

田平教会が献堂されたとき、まだ山の木はそれほど高くなかったことでしょうか。ですからなおさら、この平戸瀬戸を船で行き交う人々は、カトリック教会のすばらしさ、カトリック信者の働きのすばらしさを身近に感じ、天の父をたたえていたのではないのでしょうか。

宣教師たちが教会を山の上に建てたり、港を見下ろす場所に建てました。それは、最も効果的な場所を選んでのことでした。見事な教会を眺めて、遠くから見る教会の明かりに導かれて、教会に足を運んだ人もいたに違いありません。そのような人の中から、天の父をあがめる人も現れるのだと思います。

「山の上にある町エルサレム」「山の上にある田平教会」と考えてみました。最終的に、「山の上にある町」とは何を指しているのでしょうか。「ともし火」は「家の中のものすべて」を照らし、「山の上にある町」は「隠れることのできないもの」「人々の前に輝くもの」「立派な行い」「天の父をあがめるきっかけ」となっていくます。すると、わたしこそ「ともし火」であり「山の上にある町」である、と言うのはちょっと言いづらいかもかもしれません。

このあたりで勘のいい人は気付いていることでしょうか。最終的に「と

もし火」「山の上にある町」とは、イエス・キリストのことではないでしょうか。わたしたちが燭台の上に置き、山の上にある町として大切にすべきものは、イエス・キリストなのです。

今年、2月5日が日曜日と重なりました。2月5日は日本 26 聖人殉教者の祝日です。この田平教会が日本 26 聖人にささげられた教会ですので、この教会の祝日と言ってもよいと思います。26 人の殉教者は、西坂の丘の上で殉教したのだと思います。すると、彼らの殉教は「山の上にある町」のように、隠れることができない明白な出来事だったわけです。

一説によると、大浦天主堂は、26 聖人の殉教の丘の方角に向けられて建設されたとも言われます。大浦天主堂もまた、「山の上にある町」のように、隠れることができない明白な信仰のシンボルとなっています。26 聖人は、いのちをささげて、自分たちに注がれたイエスのともし火、イエスの光を人々の前に輝かせたのです。

26 聖人は、西坂の丘の上で、迫害に正面から向き合って「地の塩」「世の光」「山の上にある町」となりました。わたしたちはどうでしょうか。わたしたちもこの山の上にある田平教会に集まっています。山の上で山上の説教を聞いています。山の上で秘跡の恵みを受けています。そして派遣されて、山を降りて生活の場に戻っていくのです。この集いの中で、何かを持ち帰るべきではないでしょうか。わたしたちの家のものすべてを照らす「ともし火」を、持ち帰る必要があるのではないのでしょうか。

この田平教会には、26 聖人を目指して 22 人も司祭を送り出した信仰があります。修道者はその何倍もです。何かこの教会になれば、22 人もの司祭や数多くの修道者を送り出せるはずがありません。ひとつまみで味を決めてくれる塩、家の中のものすべてを照らすともし火、山の上にある町の輝き、何かがここにあるはずです。

もしわたしたちが、山の上にあるこの田平教会から、毎週何かをつかんで持ち帰るなら、わたしたちの家庭、わたしたちが出会う人、わたしたちが暮らす社会は、わたしたちを通してイエス・キリストを知り、天の父をあがめるようになるでしょう。

この神の家に集うたびに、何かをつかみ、持ち帰る。その習慣を身に付けましょう。毎回はつかめないかもしれませんが、しかし何かをつかもうと耳を積まし、目を見開いてこのミサにあずかる人が増えるなら、田平教会はこの 21 世紀にあっても地の塩世の光、山の上にある町なのだと思います。